

事例 15

生活環境の整備によるU・Iターン者の受け皿づくり

～ 農村活性化住環境整備事業「下田地区」～

[都万村]



【地区の概要】

事業期間	平成6年度～平成15年度
事業費	2,110,900千円
事業内容	
・ほ場整備	46.5 ha
・農業集落道路整備	750 m
・営農飲雑用水施設整備	1系統
・用地整備	2.7 ha
・集落防災安全施設整備	8ヶ所
・農村交流施設整備	1.9 ha
・景観保全施設整備	4.0 ha

本事業を導入し、ほ場整備により宅地用地などの非農用地9.5haを創出しました。U・Iターン者の宅地需要に応えるとともに、優良農地を確保し、営農飲雑用水施設・緑地空間・水辺空間などの生活環境を整備したことにより、住環境の快適性が向上しました。

非農用地の創設内訳

道路用地	0.4 ha
農業近代化施設用地	0.3 ha
住宅用地	0.4 ha
農村交流施設用地	0.6 ha
その他(道水路用地)	7.8 ha
計	9.5 ha



新規住宅

新規住宅5戸(730㎡/戸)は、平成11年に分譲が開始され、約半年で完売されました。

都万村のU・Iターン者等の状況

	産業長期体験者	定着者
全 県	555人	246人
都万村	30人	10人

いこいと交流



ため池を周回する遊歩道

景観保全施設整備(亀の原水鳥公園)

憩いと都市交流の場として、亀の原ため池
 一帯に、周回遊歩道・野鳥観察舎・芝生公
 園・トイレなどを整備しました。つつじ祭り
 (500人) 保育所・小学校の遠足(300人)
 など、整備後の来訪者は年間3,000人にも
 なります。



芝生公園



あいがも農法でリタイアした鴨が寄付され、にぎや
 かに出迎えてくれます。

コストの縮減

営農飲雑用水施設整備は、農業集落排水事業や隣接
 の水産飲雑用水整備と共同施行を行い経費を縮減し
 ました。

縮減額

土工経費の節減額	6千万円
施設機械経費の節減額	1億1千万円
計	1億7千万円